

関係者各位

AICAT 国際協力アカデミー
SAKURA プロジェクト関連企画『縁引』企画者
流 麻二果

2010年『トルコにおける日本年』

オープニング式典のための作品『縁引(ユカリヒキ)』

参加ご協力をお願い



来る2010年は『トルコにおける日本年』です。

メイン事業の一つである『SAKURAプロジェクト』の第1回植樹祭は日本年全体のオープニング式典となります。それを飾る作品『縁引(ユカリヒキ)』の制作にあたり、皆様のご参加を募り日本からトルコへ「贈る心」を届けたいと思います。ご協力の程、何卒よろしく御願い申し上げます。

この事業は外務省『2010年トルコにおける日本年実行委員会』認定事業であり、上記のロゴマークは認定事業に使用が許可されているものです。

1. トルコにおける日本年について
2. さくらプロジェクトについて
3. 作品『縁引(ユカリヒキ)』について
4. 主催・後援・協賛・協力
5. 参加方法
6. 制作方法(所要時間 約30分～、乾燥時間除く)

1. トルコにおける日本年について

オスマン帝国の軍艦エルトゥールル号の日本訪問とその後の遭難という出来事を発端とする日本とトルコの友好の歴史は、来る2010年に120年という大きな節目を刻みます。その大切な年を日本年とし、年間を通して外務省『2010年トルコにおける日本年実行委員会』の元に様々な事業がトルコで展開される予定です。

2. さくらプロジェクトについて

1999年11月イスタンブールで大地震に遭遇したことから生まれた『こころのパン』(Ruhun Gidasi)活動は毎年欠かさずに震源地を中心に支援活動を続けてきました。

大地震10周年(2009年)、並びに『トルコにおける日本年』を迎えるに当たり、日本の象徴である桜SAKURAをトルコの大地に根づかせ、その満開の桜花のもとで日本とトルコの市民交流と親善が一層深まることを祈念します。桜苗木は地震震源地並びに日本との関係が深い各地の施設において毎年1000本ずつ3年間、3000本が専門家の手により育成されます。

- ・開催都市 アンカラ、イスタンブール、イズミット、ギョルジュク、アダパザル、ニルフェル、アクヒサールなど
- ・開催期間 2010年1月～12月(「トルコにおける日本年」)、並びに2011年、2012年
- ・プロジェクト責任者 国際協力アカデミー(AICAT) 中浜慶和 nkhm2000@kvp.biglobe.ne.jp

3. 作品『縁引(ユカリヒキ)』について

『トルコにおける日本年』オープニング式典である SAKURA プロジェクト第一回植樹祭の際に、展示する参加型インスタレーション作品です。

・完成作品展示場所 土日文化センター(アンカラ)

・展示時期 2010年1月上旬

水引の赤と白には意味があり、赤は血液を表し、白は母乳の色。その二つの色を結ぶことによって生命の存在そのものを祝い、人と人とを結ぶといえます。本来は和紙を漉って糊で固める事で張りのある美しい水引となりますが、その扱いは難しく職人しか手がけられません。今回はその技を尊びながらも、身近な素材を使って自分の手で結んでみる事で、水引の持つ意味の素晴らしさを実感したいと考えました。

古紙を再利用する事で原始的な水引を作り、結ぶ。

その作業を出来るだけ沢山の方々にご参加願ひ、それらを全て一つにまとめあげたもので、日本からトルコへ贈られる苗木を飾ります。「贈る気持ち」を贈ります。

日常生活では見かける機会も少なくなっている水引の美しさ、そして希薄になる一方の人間関係における「人と人との結びつき」「思いやる心」の大切さを、この作品への参加を通して再考するきっかけになればと願ひます。



(作品イメージ)

■ 今後の展開

オープニング式典での発表時には、トルコにて同様のワークショップを行い、水引工芸についても紹介するイベントを開催します。

トルコでのワークショップで結ばれた水引を加え、更に大きくなった作品を2010年内に日本国内でも発表する予定です。

プロジェクトの経過は作家ブログ*で随時報告していきます。

*『流麻二果は本名です。』<http://www.manika.iza.ne.jp>

■ 作家紹介

流 麻二果(ナガレ マニカ)

1975年生。1997年女子美術大学芸術学部卒業。

絵画を中心に様々な形式の作品を国内外で発表。

2002 年文化庁在外研修員、2004 年ポーラ美術振興財団在外研修員として NY、

トルコに派遣。トルコでは 2002 年『こころのパン』プロジェクト展参加、

2005 年にはコジャエリ県立ギャラリー(当時)で回顧展開催。

家庭にある余り布を集めてタペストリーを創る WS『再縫』はこれまでに NY、トルコ、日本で開催中。

E-mail me@manikanagare.com

公式 HP <http://www.manikanagare.com>

4. 主催・後援・協賛・協力

AICAT(国際協力アカデミー)

在トルコ日本大使館 在イスタンブール日本総領事館(申請中)

土日基金文化センター

国立アンカラ大学

国立コジャエリ大学

コジャエリ大都市自治体

エスキシェヒル市

ブルサ市アクサヒール区

サフランボル市

株式会社 R&DMAK 他、現在調整中の団体含め多数

5. 参加方法

どなたでもご参加頂けます。

下記の制作方法を参加者全員でご参照下さい。

12 月 10 日までに、以下の制作方法に基づいて制作した水引を代表者が作家宛にお送り下さい。申し訳ありませんが趣旨にご賛同の上、送料はご負担下さい。

それらを全て繋いでトルコに運び、現地でインスタレーションします。

6. 制作方法(所要時間 約 30 分～、乾燥時間除く)

(1)古紙を切って短冊を作る

使用済みの紙の端、長い辺の白地の部分を1.5cm程度の短冊に切ります。

使用出来る紙：
コピー紙などの事務用紙、和紙、半紙など。色のついていない部分。

A3 や B4 等の大きめの紙は短冊 1 本で、小さめの紙は 2 本を繋いで使用します。



(2)短冊を湿らす

切った短冊を軽く水で濡らし余分な水分は拭き取ります。湿った紙は破れ易いので注意して下さい。

(3)縋る(よる)

湿って柔らかくなった短冊を端から指で摘んで縋っていきます。

A4 等の短めの短冊の場合は 2 本を 2cm 位だぶらせ、一緒に縋り合わせて一本にします。



(4)乾かす

乾くと固く強くなります。完全に乾いていなくても着色に入れます。

(5)色を付けて乾かす(乾燥時間 約15分～)

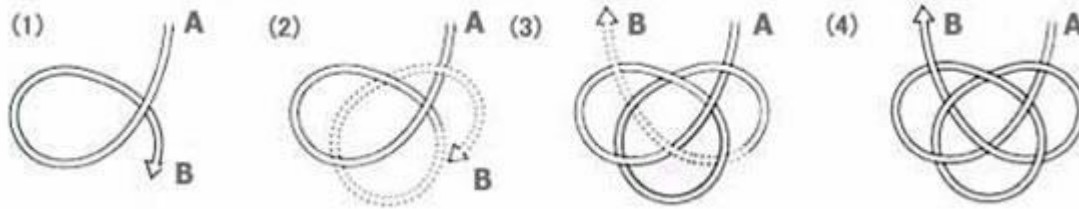
出来た水引の半分をアクリルや水彩の絵具等で赤く着色します。着色して湿っている間は切れやすくなっているので注意して下さい。昔の水引は口紅のついた唇ではさんで染めていた事もあったそうです。

(6)結ぶ

トルコの人々へ、心を込めて結んで下さい。結び方は自由です。結ぶ前に手でしごく柔らかく使いやすくなります。基本のあわじ結びに挑戦しなくても、蝶々結びでも何でも思いつくままに新しい結びを創造して下さい。

[参考]

水引の基本、あわじ結び(飯田水引共同組合公式 HP より)
本来は縁起を担いで、奇数の3・5・7本どりで結ぶそうです。



(7)隣の人と結んでいく

繋げ方は自由です。編み絡めても、テグスやワイヤーで結んでも、紙テープなどで接着してもいいでしょう。最終的に全ての水引が網状に繋がったもので苗木を囲むように設置するので、ある程度、平面的に網状になるようにして下さい。

[作例](上段・下段)結びを更に結んで編み絡める(中段)テグスで繋げる



